

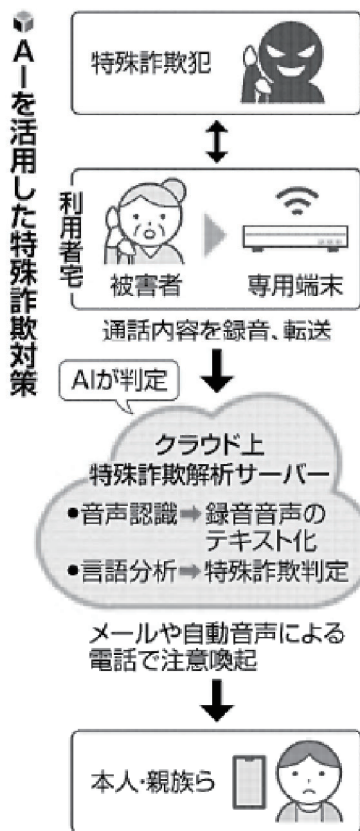
詐欺対策通話をAI解析

船橋の高齢者宅に設置

船橋署、船橋東署と両署管内の防犯組合連合会は1日、船橋市内の高齢者を対象に、NTT東日本の人工知能（AI）技術を活用した特殊詐欺対策を今月から始めると発表した。同社は2020年からAIによる「特殊詐欺対策サービス」を展開しているが、警察署と協力しての導入は県内初。

AIによる特殊詐欺対策は、高齢者が使う固定電話に専用端末を接続し、通話内容を録音してインターネット上のサーバーに送り、音声を変換して内容を解析する仕組み。使われた単語から特殊詐欺が疑われる場合、事前に登録した本人や親族にメールや音声で「犯罪の疑いがある」と自動で注意を促す。

両署が防犯上重点を置く船橋市内の地区に、防犯組合が設置工事費8800円を負担して計20台設置し、効果を確認する。船橋署によると、市内では8月26日現在、前年比15件増の102件（速報値）の特殊詐欺が発生し、被害額は2億5000万円に上る。同署の杵淵賢二署長は「電話に直接出ない対策に加え、出てしまった人にタイムリーに注意喚起を図る。一歩踏み込んだ対策」と狙いを説明



*NTTと警察 協力

した。AIによる特殊詐欺対策は既に実績を上げている。今年1月には、東京都品川区の80歳代女性から現金をだまし取ろうとした少年が、詐欺未遂容疑で現行犯逮捕された。女性宅に置か

れた端末から同区役所にメールが送られ、逮捕につながった。防犯組合などは、設置による効果を検証した上で、今後の導入拡大を検討する方針だ。